
君しか愛せない

優花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君しか愛せない

【Nコード】

N9355C

【作者名】

優花

【あらすじ】

本当に私が体験した話し。同情されたくて書いた訳ではありません。これを読んでくれて、私が伝えたいことがわかってくれたらなによります。

- これは、私の実話です。
ぜひ最後までお読みください。

『優花 - ?』

果奈・・・。

今は？10分休み？

・・・ああ！

数学の時間寝たんだった。

『ああ（笑）数学の時間寝てたんだ - ! 峰子が見てたよ - ?』

峰子とは、ボン・キュツ・ボンのナイスボディの数学の先生だ。

『うん。だって数学とかやってらんねエもん。』

私と果奈はこのクラスの、問題児だ。

『次、英語だからサボらねえ？』

と果奈。

『いいね - ! セブンイレブンいこ - 。』

まっこれはいつも通り。

- ガラガラ -

『げッカラスちゃん』

と果奈が言う。

カラスとは私のクラスの担任だ。

『お前等座れ。』

とカラス。

『ああ、なんでだよ。勉強とかかったるいんだよ。』
と私が言う。

『転校生がうちのクラスに来るんだ。入れ。』

すると、少し金のまざった黒髪の男が入ってきた。
これが可愛いと言う男子だろう。

『鈴木 康太。以上』

といって空いてる席に座った。ってか私の席？

『ねえ。私の席なんだけど？』

と私が言う。

『。。。』

完璧しかと。

『お前の髪染め直したんだ - ? うちなんて茶髪だよ』
『。。。』

無視かと思ったら

『お前の担任に黒染めやられたんだよ。』

私の担任ってあんたの担任でもあるだろ - って突っ込みたかった。

『まあ。私これからサボりだから』

『えっサボるの？』

『サボりとかうち等の常識だから（笑）』

と笑って廊下にでたら、追い掛けてきた。

『な・なんだよ？』

と聞く。

『俺も行く。』

『ぶッ。お前転校早々いいのかよ？つける - 』

初めてだった。私達に近づく男子は。

『いいよ。ついてきなよ。』

と果奈が言っと

『わかった。後、染め粉買っていい？金色の。』

『ほんと面白い奴だね。買えば - ?』

- 放課後

『おい。優花 - 』

康太は私になついた。

『なあに? 』

『俺の髪染めるの手伝つて。 』

『やだよ - だるい。 やつてほしいなら、 うちんち来いよ。 』

『え - ツ? お前んち行くのかよ? 』

『嫌なら結構ですけど? 』

『私行く - ツ 』

と果奈。

『んぢや俺も。 』

『決定 - ツんぢや今から直行 - 』

私の家についてから、康太の髪染めて、コンビニ行ってアイス買った。食った。いろいろした

『んぢや俺帰るわあ - ツ 』

と康太。

『んッ。 わかった - ばいば - い。 』

『私泊まつてく - 』

果奈は泊まるらしい。

『ぢゃな。今日はありがとな。 』

- ガチャン

『康太かわいいな。 』

と果奈。

『ねエ。なんか子供みたいだね。 』

『明日も遅刻してく? 』

果奈が聞く。

『そうだね - ツだるいしね - 』

- 朝

『ふぁーあ。』

起きたのは10時。

果奈は寝てる。

『んっ？優花起きてたんだ……。』
と果奈が起きた。

『うち学校さき行くよー。』

『待つてー。今着替えるーッ』

- 学校。

『みんなーおはよー！』

私が叫ぶ。

『早く座れ。』

げっ……。またカラスかよー

『はいはい。』

つて私の席に康太ー！

『先生ー私の席ありませんけどー？（笑）ってことでさよならー。』
またサボりまあす。的なあ？

『おい。』

『ああゝ！？』

”キユン”

つて何ときめいてるの？

たかが康太に。

つて康太ーちゃん

『俺もサボりたい。』

『いいよー』

『あっさりすぎだろ。後さあ俺お前のコト……。好きだ！』
……。えっ？

『俺じゃ駄目かな？』

えっ？えっ？嘘ー！？

『えっと、その……。私も好きー』

って勢いで言ってしまった。

『えっ？本当に？』

自分から聞いたいてそりやないだろ。

『本当に。』

『んぢゃ。今日からカップルだよ。』

幸せだった。

これから起こる悲劇に築かず。

-
-

付き合って3ヶ月がたったころ。

一通のメールが・・・

康太だ。

本文

俺、麻紀ちゃんが好きだ。付き合ってくれ。

はあ？

なにかの間違えよね？

康太が他の子に告白なんて・・・

しかも麻紀ってうちのクラスの委員長じゃん。

しばらくして、康太からもう一通メールが。

これはちゃんと私宛に。

本文

別れてほしい。

たったの1行。

悔しい。辛い。

なにより、悲しい。

- 朝

学校に行きたくない。

私は、近くの公園で時間を潰した。

すると、私の学校の前にある、男子校の人たちがこの公園に来た。

すると私の顔みて、こそこそ言ってる。

すると一人の人が来た。

『俺の名前は、岸本 拓也です。』

髪の色は私と同じ色。真つ茶色。顔もこれがイケメンって奴だろう。

『なんですか急に。』

『あの、前から好きでした。本当に大好きです。付き合ってください。』

またあんな悪夢がおきたららやだ。

辛い思いはしたくない。

『あの・・・』

『まって。返事はOK以外受け付けないから、返事がOKになったら、これにメールして。』

と、紙切れ渡された。

嬉しかった。

けど・・・もう辛い思いしたくない。

けど、少しは康太のこと忘れられるかもしれない。

最初はそんな気持ちで彼にOKメールを送った。

後から、今のような気持ちに変わるとしれずに。

- 朝

玄関をでたら、拓也がいた。

『優花 - 一緒に行こう - 』

もうこの時から私の心は拓也にかたむいてただろう。

『うん!』

手を繋いで歩いた。

あつというまに学校に着いてしまった。
『帰り迎えに行くから。まってね。』
本当に優しい人だった。

- 放課後

校門で待つてたら、1分もしないうちに来た。

『帰ろうか。』

『うん!』

完璧に大好きになっていた。

そして、今現在

まだ私と拓也は付き合ってます。

これから沢山のことがあるだろうけど、私の気持ちは変わりません。

そして最後に、いろいろ縮小してます。

他の人の台詞はほとんど、うる覚えですが、拓也の台詞はしっかり、そのものです。

ずっと大好きだよ。拓也

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9355c/>

君しか愛せない

2010年10月19日19時39分発行